善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善　正　寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

ウイルスで死ぬのではない
生まれてきたから死ぬのだ　今更驚くべきことか
生きて死ぬいのちを　いま生きている

（本願寺・メッセージポスター）

本願寺からメッセージ・ポスターが出ています。その中に胸に迫るような言葉があります。

「ウイルスで死ぬのではない　生まれてきたから死ぬのだ　いまさら驚くべきことか・・・。生きて死ぬいのちを　いま生きている」と厳しくも真実まことのお諭しです。

これは、「感染したくない。感染させたくもない。コロナの終息までひたすら、我慢、我慢！」と巣ごもり生活を余儀なくされる我々には、厳しく、中々受け容れ難い言葉のように思われます。

しかし、このポスターの言葉は、蓮如上人七十八歳の延徳四年（１４９２）に認められた御文章の中にその出典があり、現代文として意訳、抽出されたお言葉です。御文章では「当時このごろ、ことのほか疫癘（えきれい）とてひと死去す。これさらに疫癘によりてはじめて死するにはあらず。生まれはじめしより

して定まれる定業（じょうごう）なり。さのみふかくおどろくまじきことなり」と記されています。疫病で人口が３分の１に減ったほどの時代に、書かれた御文章ですから驚きます。

蓮如上人自身、沢山のお子様や奥様を次々に亡くされ、人々の悲しみや痛みが分からない筈はありません。だが、明日をも知れぬいのちを今生かされているからこそ、「まかせよ、必ず救う」との弥陀如来のお喚び声を各々身の上に聞き開き、仏恩報謝のお念仏もろともに生き抜くべきことをお勧め下さいます。

広島県のお方からお便りを頂き、コロナ感染予防のために、仕事もままならず、聴聞の法座も中止、中止で嘆いておられたようですが、「ため息の中の念仏。いや、念仏の中のため息。仏はここに来ていてござった」とありました。手紙を読ませて頂いた私自身、「うーん、そうだ。ため息をつくような私のためにみ仏さまは今ここにお越し頂いておられたのか！Tさんありがとう」とうなずかせて頂きました。

怠惰に流されがちな自分自身もまた、み仏さまのお救いの中にある身と改めて目覚めを与えられ、お念仏申しつつ、元気を頂いたのです。

感染してもしなくても、明日をも知れぬ、いのちを今生かされているとは厳しくもかけがえのないのちではないか？お念仏申しつつ、我もみ親のみ手の中とうなずき、前向きに生き抜きたいものですね。

南無阿弥陀佛

☆行事ご案内☆

10月の門信徒会例会

10月18日(日)午前8時半

①コロナ禍の中の世相と生き方
②感染予防に配慮の報恩講について

◇**『第10回善正寺門徒展』百五銀行阿倉川支店** 10月1カ月間多彩な作品展示。11月2日3日報恩講期間中も本堂に展示。作品締め切りは9月29日まで。

◇**絵手紙教室** 10月13日（第２火）前10時（54回目）川崎光子先生、初心者大歓迎、小杉郵便局にも展示

◇**歌声喫茶** 10月15日（第３木）後１時（14回目）

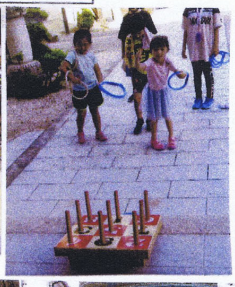
◇**キッズサンガ** 10月3日（第１土）後4時、夕方5時の鐘撞きは年中無休。合掌できる子供を育てよう！

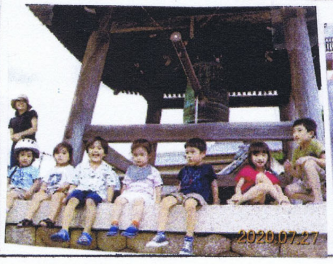
◇**善正寺ホームページ**『三重善正寺』で検索。28年間毎月発行の寺報が過去1年分閲覧可。毎日更新のブログ『住職と坊守のつれづれ日記』大好評！12年間総訪問者は32万８千人。お悩み相談や仏事等何でもOK。即返信

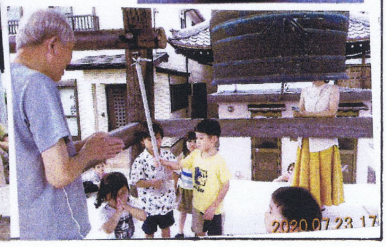
◇**『報恩講』の予定　11月2日後1時半、夜　、3日前10時、後1時（三全仏婦主催）** 講師守快信先生（滋賀）コロナの状況次第で変更になる場合あり。２日１１時～１２時のお非時も持ち帰りか否か、状況に応じて判断します。

◇**新納骨堂**後継者の無い方、お墓でお困りの方相談下さい

☆　写真アラカルト　☆







坊守（ぼうもり）スケッチ　拝みあう家庭が基本

先日、19年前にお勤めした蓮如上人五百回遠忌法要のDVDを頂戴しました。当日私は忙しくて午前のギター説法（小泉信了氏）と午後の法話（梯実円和上）を聴聞することができず、今回やっとゆっくり拝聴できました。

梯先生は先ず蓮如上人時代の歴史的背景を話されました。15世紀中頃、蓮如上人は42歳で本願寺第8世の門主の地位に就かれました。当時の本願寺は貧しく寂れていました。その頃日本全国では大飢饉が襲い、京都には流民が押し寄せて、乞食数万人、8万2千人の餓死者が出て大混乱。短期間に日本の人口はわずか三分の一に減少。上人の妻子も次々に病死。失意のどん底に追い打ちをかけるように延暦寺からは本願寺破却の命が下されました。上人は全国各地を転々と逃げ延び浄土真宗の教化伝道に励まれました。

その間に上人は平易な言葉で親鸞聖人のみ教えを的確に伝える手紙（御文章）と、六字名号『南無阿弥陀仏』の軸を各地に残され、人々に救いの光を当てました。上人の命がけの活動は、火の玉のようになってたちまち全国に広がりました。上人が浄土真宗の「中興の祖」と言われる所以です。

梯先生のご法話の後半は、吉崎御坊（福井）で次女見玉尼様と父蓮如上人とのエピソードです。上人は比叡山から追われ、二カ月間で3人の妻子を失い、満身創痍になりながら吉崎御坊を建立。しかし直ぐに離れる日がやってきました。父に代わって吉崎の信者たちから慕われ信頼されたのが次女の見玉尼様。しかし見玉尼様も25歳の若さで病死。見玉尼様の葬儀には吉崎近辺から数万人がお見送りし、蓮如上人は娘の白骨から3本の青い蓮華が咲き、金色の蝶々になって西の空に飛んで行く夢を見ました。その時父は娘こそ後生の一大事を知らせる『善知識』であったと悟られました。親が子を導き、子が親を訪い導く。お互いが善知識となってご法義を確かめ合って確立する。「拝みあう家庭こそが浄土真宗の根幹」と先生は熱く語られました。

蓮如上人の御法要が単なる一大イベントで終わらずに、19年経ってやっと私に届いた上人からのメッセージ。お浄土に還られた二人の先生からの『還相回向』ではないかと感謝します。

俳壇

登校日マスク水筒夏帽子　釋妙水
一人居はキャベツ一枚炒めけり
夏山や両手広げて抱いてみる
ことことと含み茄子煮るだし汁で
青紫蘇や摘みし指先香り立つ
目覚めれば台風一過残り月　釋楽邦
コロナ禍やズームで参加初盆会
白粉花色水遊び幼き日
打水や少年嬉々と庭駆ける　釋清風
新学期マスクの児らの秋暑し

☆若坊守の『育自な日記』70

今年の子供達の夏休みは約三週間と短いものでしたが、皆様のお宅の子供さんはどう過ごされましたか？

夏休み中、我が家のちょっと面白かった出来事を紹介します。

ある晩のお風呂上り、年長さんの長女が私に尋ねました。

「母ちゃん、父ちゃんのこと好き？」

「（ドキッ！）嫌いって言ったらどうするの？」

「じゃあ、どのくらい好き？90％？」

「まあ、そのくらいかな。」

おませな長女の質問にドキドキしていたら、そのあと彼女はこう言いました。

「私は、母ちゃんは100％好き！父ちゃんは90％くらいかな…。」

なーんだ。つまり、自分は母ちゃんの事が大好きってことを言いたかったのね！ちょっとホッとした私でした。横には悲しんでいる主人の姿が…。

なぜ突然長女がこんな話を始めたのかわかりませんが、大人はしどろもどろなのに、子どもは純粋に家族をどれだけ好きなのかということを伝えたかっただけという印象深い場面でした。子どもは突然何を言い出すかわかりませんが、だから面白いですね。

☆カンパありがとう

富田和代様、栗本洋子様、上田ひろ子様、澤田美智江様、他匿名様よりお志や切手を頂戴しました。感謝！

☆お知らせ

※今年も10月の1カ月間百五銀行阿倉川支店で『第十回善正寺門徒展』が開催されます。絵手紙、絵画、書道、人形、写真、布絵等多彩な作品。今年の注目は遺作の初出品絵画です。11月2・3日の善正寺報恩講期間中も本堂に展示します。ご期待下さい。

☆一縁会テレホン法話、当住職担当は9月21日(月)～27日(日)まで。TEL059・354・1454で3分間の法話をお聞き下さい。

☆絵手紙教室（第2火曜前10時）と歌声喫茶（第3木曜後1時）は、9月より再開しました。コロナの状況を見ながら随時変更あればお知らせします。

☆9月20日小杉町仏教会『追悼法要』（光念寺様会場）は、関係者だけで短縮版のお勤めに変更されました。

☆編集子より☆

「善正寺だより」322号をお届けします。◇コロナ禍を嘆き、猛暑に続いて台風襲来、気が付けば早や秋。歳月の過ぎ去りし速さに愕然とします。◇「コロナが終息しなければ、〇〇できない」等、今日を忘れて先送りばかりしていては我が命の灯が尽きてしまう。「生きて死ぬ命を今生きている」という自覚の下、日々油断なく前向きに生き抜きたいものです。南無、称名。

コロナの感染者数に一喜一憂している内に秋になりました。自粛生活も慣れてマスク、手洗、うがいは常識の昨今。如何お過ごしですかで、過去の歴史を調べると、15世紀の大飢饉では人口が三分の一までに減少した事実に驚きました。「前に」に生まれん者は後を導き後に生まれん人は前を訪へ」と道綽禅師もお説き下さいました。しかし現代は横の情報は瞬く間に広がる一方で、親から子へという縦の情報は伝わり難い時代。老親は「子供には迷惑をかけたくない」と言い、我が子へ大切な「み教え」が伝わっていません。その結果若い世代は家族の絆も世間の繋がりもバッサリと切り捨て、ネットで得た情報を鵜呑みにして拠り所にします。自己中心的な人間が多くなり、顔も知らない相手に騙されることもあります。あなたを見守り育てて下さった親や先生や周囲の「ご恩」を忘れてはなりません。コロナでオンラインの新生活様式が広がり、時間的余裕ができたならば、一日に一度は家族と仏前に座ってみませんか。称実円和上は「本来の浄土真宗は、お救い下さいと仏様にお願いするのではなく、お救い下さっている仏様、今日も一日有難とうございますとお受けして全てをお任せするのです」とお聞かせ下さいました。コロナで今までの「当たり前」だった生活が、有難い皆様の支えの「おかげ」と気付くならば、新しい道が開ける転換点となるでしょう。もう少しの辛抱です。トンネルの先に光が差し込んでいるのを信じて共に頑張りましょう。

令和二年十月　合掌　善正寺坊守　拝